

令和3年度 石川県立小松特別支援学校 自己評価計画書（最終評価）

重点目標	具体的取組(主担当)	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析及び今後の課題
1 指導力の向上	【ICT活用による授業改善】 GIGAスクール構想や新学習指導要領を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて取り組む。 (教務課)	【努力指標】 タブレット端末等のICT教材を活用した効果的な授業展開や教材などを検討し、授業実践につなげている。	児童生徒がタブレット端末を活用する授業を通して成果や課題が整理できた教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成 A	教員に対するアンケートの結果、成果と課題が整理できた教員は81%であった。成果としては、児童生徒の関心・意欲の向上、知識の定着に加え、友達と作品を見せあったり話し合ったりしながら対話的な学びを深めることができたことがあげられた。これは、教員が実践事例を共有し、活用のアイデアを広げることができた成果と言える。課題としては、タブレットの操作説明に時間がかかること、他のアプリに興味が見られる姿が見られた。今後は、活用実践を検証し、より効果的な授業展開を目指して工夫をしていく。
		【満足度指標】 ICTを活用した授業が積極的に行われている。 保護者アンケート	授業参観や通信等でICT活用の様子がわかり、取組に満足している保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成 A	保護者アンケートの結果、ICT活用の取り組みについてB以上で評価した割合は、小学部91%、中学部89%、高等部74%であった。タブレット端末の操作に慣れ、自分で調べる姿が見られる、視覚的に理解が深まりできることが増えた、休業中の宿題をタブレット端末で楽しそうにしていた等、子どもの成長を実感できたという意見が寄せられた。一方で、授業参観が2度中止になったことから、授業を見る機会がなく残念だったという意見も複数寄せられた。今後は、児童生徒が授業でICTを活用する様子を保護者に伝える機会や方法を工夫していく。
	【組織的、計画的な研修】 タブレット端末を用いて児童生徒の学校生活や学習活動が充実したものとなるよう、端末やアプリの活用に関する研修会を実施する。 (情報課・研修研究課)	【努力指標】 端末やアプリの活用に関する研修会を実施する。	端末やアプリの活用に関する研修会を開催した回数が A 4回以上 B 3回 C 2回 D 0～1回	B以上で達成 A	タブレット端末やアプリの操作方法等についてや授業実践報告などの研修会を16回開催した。外部講師を招いたり、定期的な研修を設定したりしたこと、開催回数を中間評価からさらに増やすことができた。授業実践報告会を設けたことで、操作方法等の研修で学んだことを授業につなげることができた。今後もタブレット端末が活用した授業実践につなげられるように、教員の活用技能の向上を図るための研修を継続的に開催していく。
2 災害に備える	【防災教育の充実】 方が一の災害に備え学校安全課が年間指導計画を立案し、各学部で児童生徒の実態に即した防災教育に取り組む。 (学校安全課)	【成果指標】 実態に即した目標を設定し、各学部で防災教育を実施することにより、児童生徒の防災への意識が高まったり、具体的な行動の理解が進んだりしている。	実態に即した防災教育の取組を通して、児童生徒が防災への意識の高まりや具体的な行動の理解が進んだと感じる教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成 A	教員に対するアンケートの結果、①避難行動の理解が進んだ、やや進んだ教員は98%、②児童生徒の防災意識が高まった、やや高まった教員は98%であった。各部で防災・安全学習年間計画をもとに、避難訓練の事前事後学習、避難所での過ごし方や防災グッズ作り等、時機をとらえて防災に関する学習に取り組んできた成果といえる。今後も命を守る行動ができるように、各学部で防災・安全学習年間計画の見直しや検討、また防災意識の向上につながる実践の工夫をしていく。
3 心身ともに健康に過ごす	【感染症対策の徹底】 洗面所の使い方について児童生徒の実態把握を行い、改善目標を設定して取り組む。あわせて掲示物や保健だより等で啓発を行い、家庭と連携して定着を図る。 (保健体育課)	【成果指標】 感染症予防のための洗面所の使い方に改善が見られる。	感染症予防のために、洗面所の使い方に改善が見られた児童生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成 B	動画の作成、放送での呼びかけ、保健だよりや掲示物などにより、個々の意識を高めることができ、継続して取り組むことで、洗面所の使い方に改善が見られた児童生徒の割合は75%となった。A、B評価にはつながらなかったが改善が見られる児童生徒、あまり改善が見られなかった児童生徒については、引き続き取り組んでいくことよい。今後も感染症対策のため、感染予防のための行動がしっかりと身に付くようにしていくことが大切である。
		【満足度指標】 学校での感染症対策を理解し、対応に満足している。	保護者アンケート	感染症予防のための取組に、満足している保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成 A

令和3年度 石川県立小松特別支援学校 自己評価計画書（最終評価）

	<p>【児童生徒の心のケア】 感染症に対する正しい知識を持ち、感染症に対する差別や偏見を防ぐ。 (保健体育課・生徒課)</p>	<p>【努力指標】 各学部で、児童生徒の実態に即した感染症の正しい理解や差別偏見を防ぐための授業を実施している。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症に関する授業を実施した回数は A 4回以上 B 3回 C 2回 D 1回以下</p>	<p>B以上で達成</p>	<p>A</p>	<p>人権教育講話、長期休業前の心得（夏、冬）保健室からのお知らせのテーマで4回実施した。さらに各部各教科等で随時学習することで新型コロナウイルス感染症についての理解が深まり、差別や偏見をおこなわないという意識が高まった。今後もコロナの状況に応じて授業の内容を検討していく。</p>
4	<p>業務の改善</p> <p>【業務の効率化と環境整備】 ICT活用と環境整備を進めることで、情報共有、データ管理、円滑な引継ぎ等の業務の効率化を図る。 (教頭)</p>	<p>【成果目標】 各教員が業務の改善に向けて自己目標を設定し、ICT活用や環境整備を進め、業務の効率化につなげている。</p>	<p>自己目標を設定し、ICT活用や環境整備を進めることで、業務の効率化につながったと感じる教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>B以上で達成</p>	<p>A</p>	<p>「業務の改善シート」で挙げた個人目標について、改善が図られたと回答した教員の割合は92%であった。具体的な改善点として、書類の整理方法の工夫やタスク管理、スクールサポートスタッフの活用による業務軽減に加え、タブレット端末やネットワーク上でのデータ管理が挙げられた。書類作成やデータの共有方法等、更にICT活用を進めつつ、統合できる業務の洗い出しなどを行い、ハードとソフトの両面での業務の効率化と環境整備を図っていきたい。</p>